

日本経済新聞

10月17日

水曜日

廃タイヤ、電線や電子基板など異素材混合物の分離と破砕を同時にするユニークなリサイクル機械で高い評価を得るエムダイヤ(富山県滑川市)。昨年の東日本大震災、直近の日中間の緊張など相次ぐ逆風の下、社長の森弘吉さんは売り込みで国内外を駆け巡る。

独自開発のリサイクル機

エムダイヤ社長 森弘吉さん

同社の分離・破砕機「エ コセパレ」は、日本産業機械工業会の第38回優秀環境装置表彰で県内企業過去最高位となる中小企業庁長官賞を受賞した。父が廃タイヤ処理用に考案した装置を改良した同機の特徴は、破砕を切断でき、そぎ取るようにする剥離技術だ。作業を効率化でき、刃の耐久性も向上、ランニングコストも抑えることができる。

ほくりく ism



相次ぐ受賞を商機に

「アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー」の富山県代表として9月に名古屋で開かれた東海・北陸大会に出場。チャレンジング・スピリット賞に輝いた。大手自動車解体会社はもちろん、光ケーブルの再資源化を手がける大手電線メーカーの関連会社や、小型家電リサイクル法をにらんで家電量販店のグループに納入した。だが、一気に拡販を狙った昨年は震災発生の影響をもろに受けた。

同社の輸出第1号となるはずだった北京市での自動車リサイクル事業向けの納入予定機は今月から国内の港に留め置かれたままで、海外展開の本命と見据える中国事業の行方は不透明さを増すばかりだ。

それでも中国との行き来を通じ、湖北省の大手破砕機メーカーと事業提携で合意、将来に備える。新規用途の開発も進め、「東日本大震災で流失した漁網は鉛が付着しており、分離回収するのに応用できるのではないか」と知恵を絞る。

富山県上市町出身、36歳